

資料 1

西東京市公民館運営審議会
令和元年度第11回定例会議

令和元年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和2年2月25日

NO	実施館	事業名	事業目的	期間・回数	参加者数	学習成果	主な講師等
1	柳沢	女性のための講座 人生100年時代を生きる 自分みがき術 ～コミュニケーション、お金、健康～	学習・ 自己実現	9月25日(水) から 1月15日 (水) 全13回	延べ179人	100年という長期の視点で「自分はどうか生きていか」を問いかけ、自分らしい人生を主体的に創造する第一歩として「私の行動宣言」を発表し合った。周囲と良好な関係を築くためのコミュニケーションについても理解を深めた。また20歳代から60歳代までの幅広い年代の女性が交流し、「仲間」として学び合った。	藤田 潮（生涯学習 開発財団認定マ スターコーチ） 山田静江（ファイ ナンシャルプラン ナー） 五十嵐花恵（理学 療法士） 西東京レスキュー バード（市民活動 団体）
2	田無	料理講座 小学生とパパの親子で、 “パパっごちそうレシピ！”	学習・ 自己実現	10月14日(祝・月) 11月4日(祝・月) ・24日(日)	延べ92人	家庭では体験しづらい父と子の「料理」を通してのコミュニケーションづくりの場を提供し、家庭での父親の子育て参加を促した。小学生や子育て中の父親に、「食」の大切さや料理の楽しさを知ってもらった。調理実習を通して、家庭の食文化を豊かなものにするきっかけづくりとなった。	吉田朋子（管理栄 養士、キッズキッ チンインストラク ター）

3	田無	料理講座 発酵食で和食の基本ごはん ～自然の力で健康に～	学習・ 自己実現	12月3日 10日 17日 火曜日	延べ66人	各地の気候風土に合わせて受け継がれてきた発酵食品を知り、健康効果を学んだ。子育て中の母親の参加も促し、化学調味料を使用しない自然食品を使用した調理法を改めて学ぶ機会となった。今後も食に関心のある仲間と学習を深めたいと計画である。	Izumi(発酵食料理 研究家、発酵食エ キスペート)
4	谷戸	日本の文化を学ぶ講座 「水引細工・しめ縄づくり」を学 びませんか	学習・ 自己実現	12月14日・21日 土曜日	延べ28人	水引の歴史と正月飾りの意味について学習し、改めて伝統文化の奥深さを知る良い機会となった。しめ縄づくりを通して地域への文化伝承に役立った。また、材料の真菰が環境浄化に効果があり、正月飾りを通して環境問題への貢献になることを学んだ。	梶 政華(政華流水 引アート主宰) 井上美由紀・小松 高子(NPO 地球と共 に生きる会)
5	谷戸	子ども体験講座 日本の伝統文化「能」を体験!	学習・ 自己実現	12月26日(木)	18人	日本の伝統文化への知識が増え、体験することでより興味も深まり、日本の伝統的な芸術「能」に対する理解が深まり、「能」を通して日本のその他の文化「きもの」や「和楽器」への理解にも繋がり、日本文化を見直すきっかけとなった。	小早川 修(日本能 楽会会員、シテ方 観世流) 小早川康充(東京 藝術大学音楽学部 邦楽科在学)

6	谷戸	女性のための講座 生きるチカラの育て方	学習・ 自己実現	9月19日から 1月16日 木曜日	延168人	命が誕生する奇跡にあらためて触れ、母となった不安や喜びを思い返し参加者同士共有することで一体感が生まれた。また、アート体験をきっかけに子どもの感性の活かし方、発想の広げ方を知り、環境の変化の中でも自分の発想を信じる力、価値観を育てることの大切さを学び子育ての指針となった。	細田恭子(いのちのお話「くもといっしょに」主宰、帝王切開カウンセラー) 高島美希(NPO法人まちかど保健室理事、西東京市でこぼこ副代表、保育園アート講師) 砂子啓子(i-くさのねプロジェクト・防災士)
7	ひばりが丘	子ども対象講座 小中学生初心者将棋講座 ～将棋を学び、友達・親子で楽しもう～	学習・ 自己実現	12月1日 8日 15日 日曜日	延べ22人 (小学生 13人 保護者 9人)	相手を目の前にして競技する将棋は、対局時の礼儀・挨拶やルール・作法により行う。そのため、人との円滑なコミュニケーションで役に立つことを学んだ。また、遊ぶなかで問題を正解した時の達成感を得て、粘り強く考え抜く力を得た。	鈴木 晃(日本将棋連盟アマ五段、公認棋道指導員、翔風館支部長) 講師助手：細谷優人(アマ4段、日本将棋連盟指導員補佐)
8	保谷駅前	子ども対象講座 アルキメデスへのとびら ～算数・数学と友だち～	学習・ 自己実現	12月26日(木) 27日(金)	延べ58人	なぜそうなるのか考えることによってわかってくる体験を通して、算数・数学を楽しんだ生徒が多くいた。学校とは違う取り組みが実現できて、興味関心を深めることができた。また、生徒同士の考えや解き方、気づいたことなどを発表することで、交流を深めた。	友利将吾(私立武蔵高等学校中学校数学科教諭)